

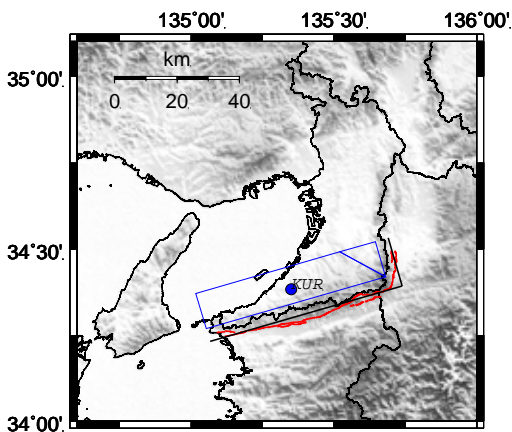
## 4. 基準地震動 $S_s$ の策定

# 地震の分類と検討用地震の選定

様式	内陸地殻内地震	プレート境界地震	海洋プレート内地震
検討用地震	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)と上町断層帯による地震を選定	想定南海地震(M8.4)、想定東南海地震(M8.1)、想定東南海・南海地震の連動(M8.5)	沈み込んだ海洋プレート(スラブ)内地震及び沈み込む海洋プレート内地震(M7.4)
備考	地震規模と敷地との距離の関係から選定	地震調査研究推進本部による想定地震	地震調査研究推進本部に基づいた2004年東海道沖の地震と同規模の想定地震

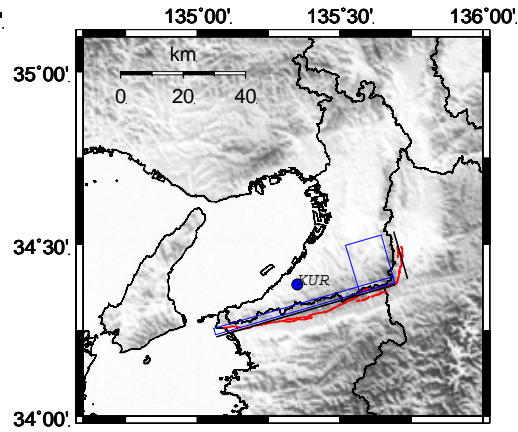
# 検討用地震の震源モデル（内陸地殻内地震）

1. 検討用地震：中央構造線断層帯及び上町断層帯による地震
2. 震源モデル：地震調査推進本部及び大阪府のモデルを参考に作成

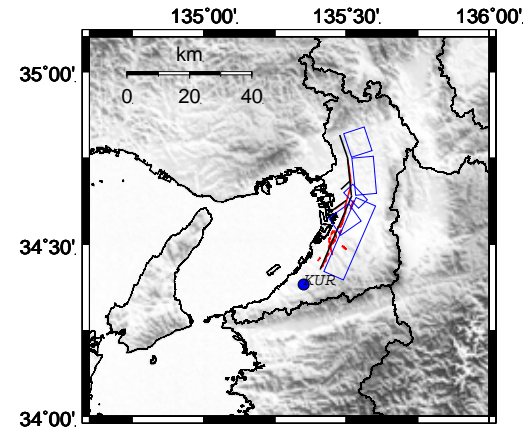


傾斜角43度

中央構造線断層帯による地震



傾斜角80度

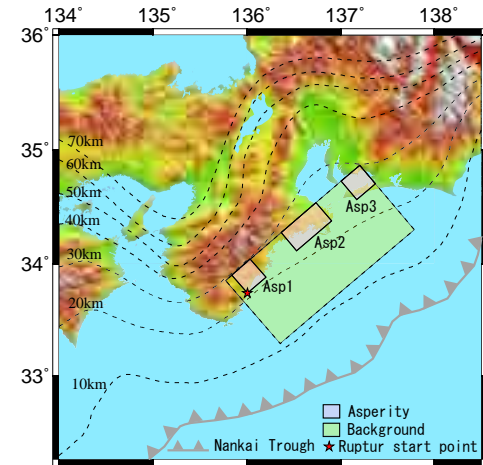


上町断層帯による地震

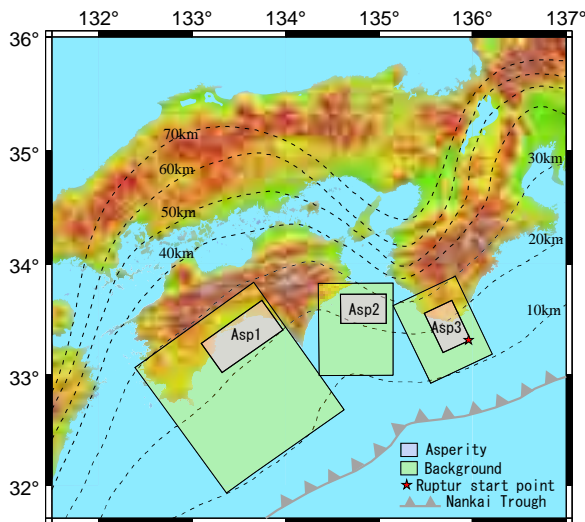
断層面の地表投影図  
赤線：地表断層位置  
青線：断層面の位置  
黒線：断層面と地表の交線

# 検討用地震の震源モデル (プレート間地震)

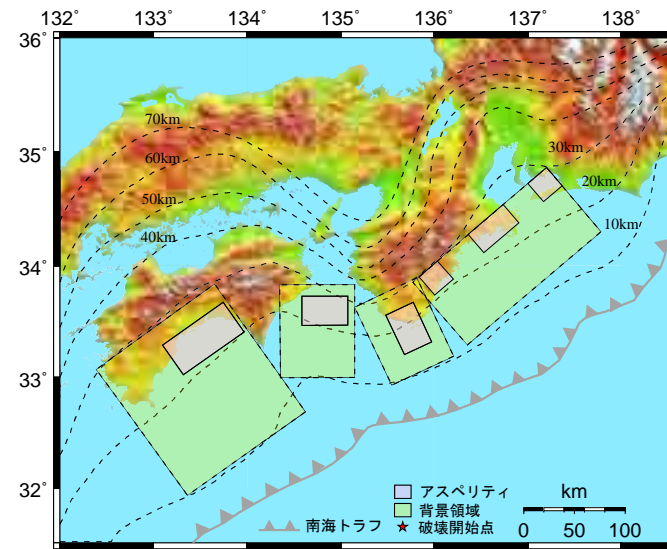
1. 対象とする地震: 想定東南海地震、想定南海地震、想定東南海・南海地震 (連動)
2. 震源モデル: 地震調査研究推進本部 (2001) のモデルを基本に作成 (Kawabe and Kamae, 2008 )



想定東南海地震 (M8.1)



想定南海地震 (M8.4)



想定東南海・南海地震の連動 (M8.5)

※図中の破線はフィリピン海プレート上面の深さを表す。

# 検討用地震の震源モデル（海洋プレート内地震）

1. 地震調査研究推進本部の確率論的地震動予測地図に基づき、海洋プレート内地震のマグニチュードを7.4とする。
2. M7.4の地震が敷地直下のプレート内で発生したと仮定し、震源深さは敷地直下のプレート上面深さ(60km)にプラス10kmの70kmとする。



フィリピン海プレートの震源断層を予め特定しにくい地震の地域区分ごとの最大マグニチュード

番号	最大 M	根拠	備考
1	プレート内 7.4	2004.09.05 紀伊半島南東沖	
2	プレート間 6.9	1929.05.22 日向灘	海溝型地震として M7.0 以上の地震が別途考慮されている。
	プレート内 7.2	1996.10.19	
3	プレート内 6.6	1769.08.29	長期評価の記載に基づき設定。
	プレート内 6.6	1968.08.06 愛媛県西方沖	
4	プレート内 8.0	1911.06.15 奄美大島近海	震央位置は、Gutenberg-Richter のカタログの位置を採用。
5	プレート間 6.6	(長期評価対象M未滿)	海溝型地震として M6.7 以上の地震が別途考慮されている。
	プレート内 6.6	(長期評価対象M未滿)	
6	プレート内 6.6	(長期評価対象M未滿)	海溝型地震として M6.7 以上の地震が別途考慮されている。

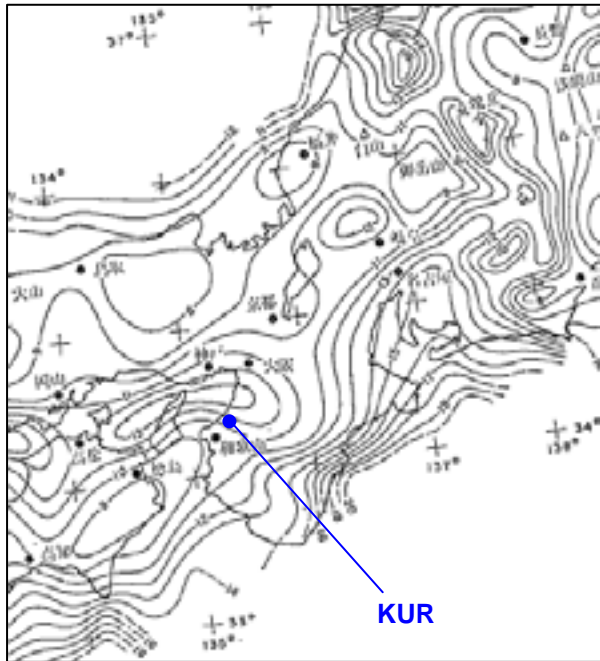
フィリピン海プレートの震源断層を予め特定しにくい地震の最大マグニチュード  
間:プレート間地震、内:プレート内地震

地震調査研究推進本部 確率論的地震動予測地図の説明資料より

# 地震発生層(1)

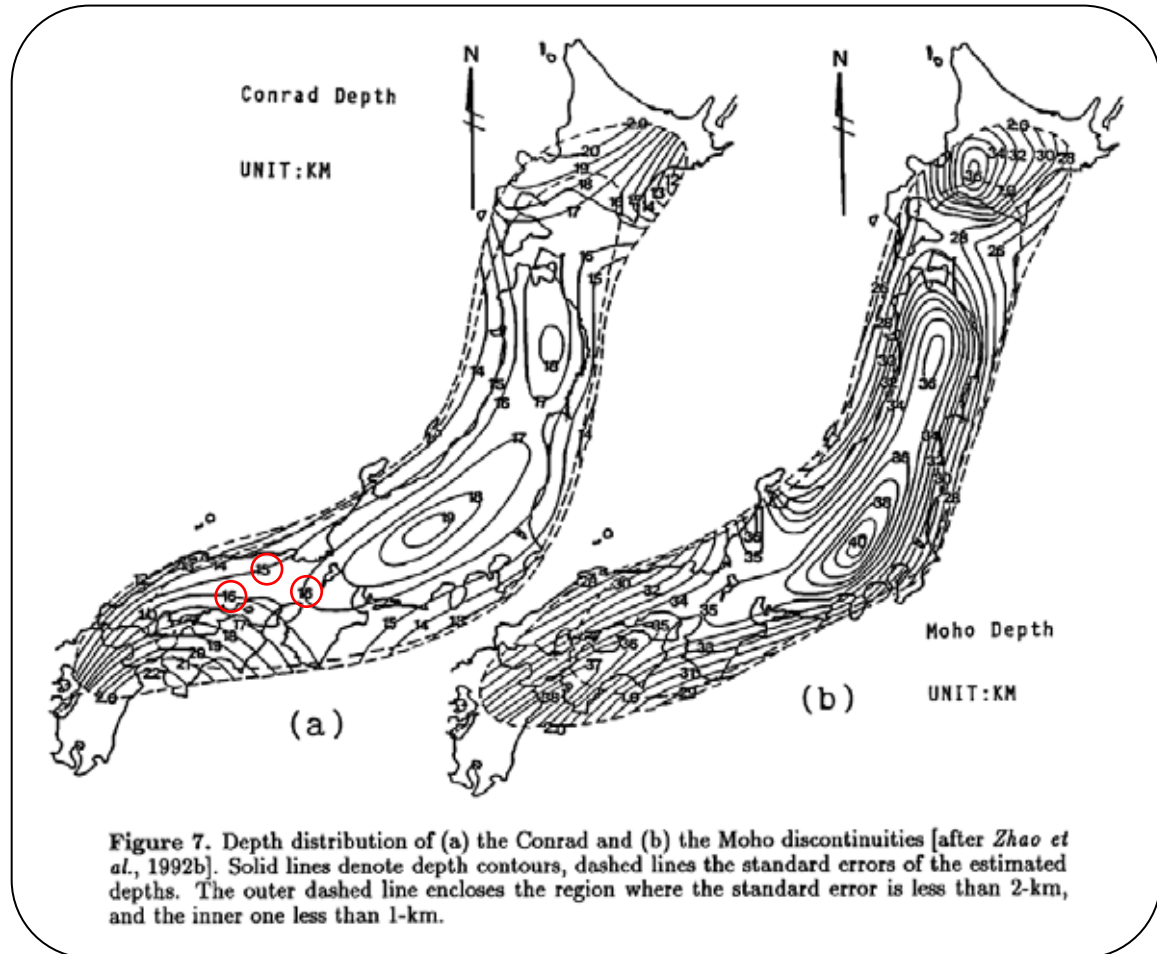
## コンラッド面の深さ

### キュリー点深度



大久保(1984)に加筆

敷地周辺のキュリー点  
深度は11~12km



Zhao et al.(1994)に加筆

敷地周辺のコンラッド面深さは15~16km程度